

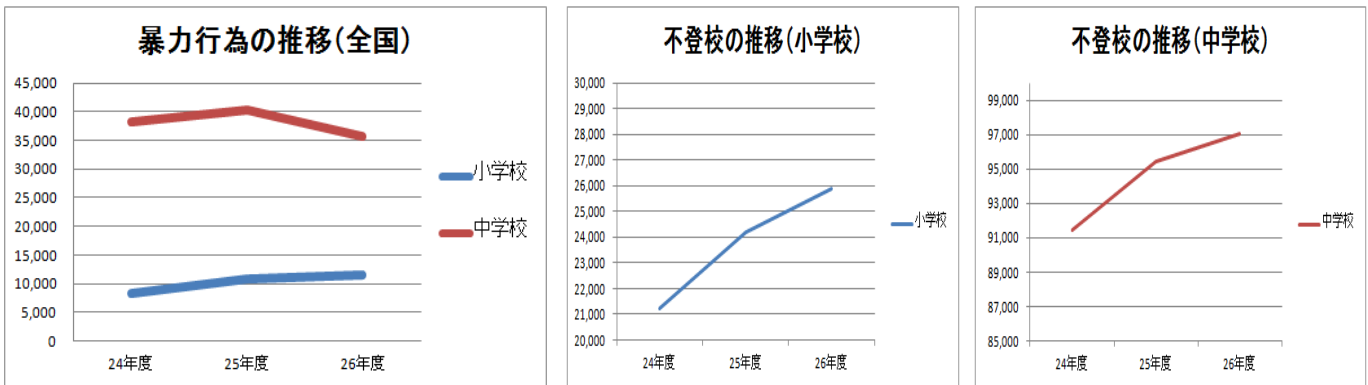


# 南房総の風し

## — 増え続ける小学校の暴力行為と小・中学校の不登校の原因とその対策を考える —

ストレスの増加や感情をコントロールする能力の低下などにより、突然壁を殴る、先生に噛みつくといった暴力行為が増加しています。また、不登校者数もこれといった原因がはっきりしないまま、小中学校ともに減少する兆しが見えず、増え続けています。

そこで、なぜそれらの問題が発生してしまうのか、原因とその対策について現状を見つめ振り返りながら、皆さんと考えていきたいと思えます。



平成27年度 文部科学省資料

※平成26年度問題行動調査より

### I 増え続ける問題行動の原因

- ① 二者関係（愛着関係）未構築  
強い見捨てられ不安感  
他者への強い依存心  
感情の起伏が激しく、キレやすい  
愛情の一人占めへの欲求  
衝動的な言動
- ② 性的成熟の早まり  
体の成長と心の成長との不一致  
親に対する批判  
親への隠し事
- ③ 問題行動発生の一因  
児童生徒とじっくり話し合う時間が確保できない。  
生徒指導や特別支援教育の研修にかかる時間が確保できない。  
「やらない」のか「できない」のかの児童生徒の見極めが難しい。  
児童生徒の内面の変化になかなか対応できない。  
児童生徒の耐性自体が低下している。



不登校



一人占め



暴力行為

⇒ 1対1の関係を強く求める傾向



メールを打つ

## II 現状から考えられる対策

### ① 安定した教師と生徒との二者関係の確立

- 丁寧なコミュニケーション
- 丁寧に話に耳を傾ける
- 短時間&継続的に

⇒学校での安心できる居場所づくり



### ② 豊かな心の育成

- 楽しい、魅力ある学校生活

・個々の児童生徒が活躍できる場面を設定している。

- 昼、放課後の時間の過ごし方

・児童生徒とともに過ごす時間を状況に応じて設定している。

- 生徒指導の機能を生かしたわかる授業の実践

#### i 自己決定の場を与える（自己決定感）。

・『自分のことは主体的に自分で決めて実行しているんだ。』という気持ちを育てている。

→児童生徒が考えを整理するための時間を確保している。

→児童生徒の考えを発表する場面を設定している。

#### ii 自己存在感を与える（有能感）。

・『やればできるんだ。』という気持ちを育てている。

→「よくできたね」「頑張っているね」など、承認や称賛、励ましの言葉をかけている。

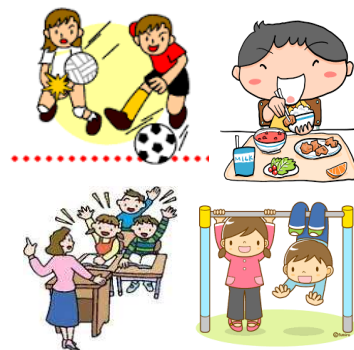
→意欲のない児童生徒、発言が苦手な児童生徒に適切に対応している。

#### iii 共感的人間関係を育成する（他者受容感）。

・『自分は周りの人から受け入れられているんだ。』という気持ちを育てている。

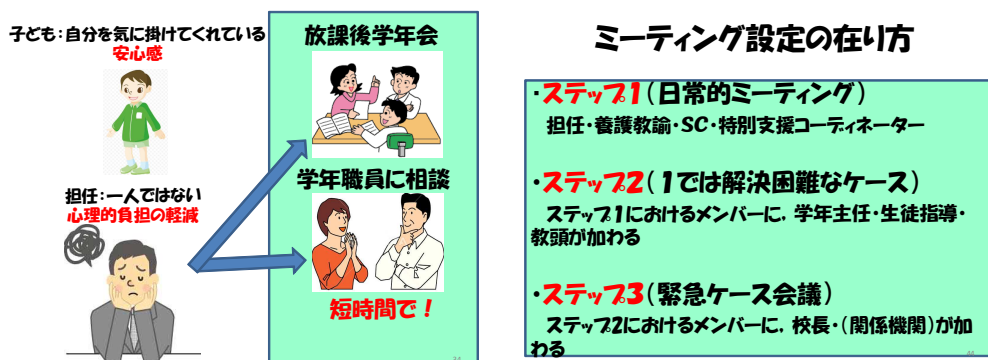
→仲間の意見にうなずくなど、反応を示すように指導している。

→児童生徒が意見を発言するときには、クラス全体に向け発表するように指導している。



### ③ 組織対応のメリット

- 児童生徒にとっては、様々な教師が気にかけてくれているという安心感を持つとともに、心理的な安定に繋がる。
- 教師一人では気づかない児童生徒の変化に対応できる（早期解決に結びつく）。
- 学級担任にとっては、心理的負担の軽減に繋がる。
- 教師間の結びつき（ミーティング設定の在り方）を強める。



暴力行為や不登校等を減少させるためには、問題行動の兆候にいち早く気づき、時機を逃さず組織的に対応するなど、適切に取り組んでいくことが大切です。問題を起こした児童生徒も悩み苦しんでいる気持ちを慮って、決して、児童生徒への表面上の指導のみで終わることなく、本人の心情に寄り添った対応を心がけてほしいと思います。